

景気見通し調査(平成27年9月期)

調査結果

福井商工会議所
中小企業総合支援センター

【調査の概要】

当調査は、福井商工会議所管内の小規模事業所の短期的な景気動向を把握するため、毎年3月・6月・9月・12月の年4回実施している。

調査時期 平成27年9月9日(水)～16日(水)

調査方法 F A Xによる送付、回収

調査対象 福井商工会議所 会員小規模事業所より 360件を抽出
(製造業・建設業・・・従業員20人以下の事業所
卸・小売業、商業・サービス・その他・・・従業員5人以下の事業所)

回答数 191件 (回収率53.1%)

	製造業	建設業	卸・小売業	サービス業・その他	合計(%)
5人以内	16	17	29	15	77(40.3)
6～10人	15	17	7	6	45(23.6)
11人以上	21	15	14	15	65(34.0)
合計(%)	52(27.8)	49(26.2)	50(26.7)	36(19.2)	187

※不明4件除く

・文中にでてくる「DI値」とは

ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、景気動向を示す指標。「良い」「上昇」したとする企業割合から、「悪い」「下落」したとする企業割合を差し引いた値。「現在」DI値は3か月前を基準とした現在の状況、「先行」DI値は今後3か月後の状況を予測したもの。

【調査結果の概要】

足踏みから持ち直しへ

～卸・小売業を除く業種で採算改善～

1) 業界の景況 《停滞期を脱し、持ち直しの動き》

「現在」DI値は前回調査から14.2ポイントも改善した。業種別では、「サービス業・その他」を筆頭に改善している。「先行」DI値は▲29.9を示し、今後3ヶ月の動向は現在と同水準で推移すると見込んでいる。

2) 自社の景況 《大きな改善となるも先行きは慎重》

「現在」DI値が▲18.9となり、自社の景況は改善されたとみられる。業種別では「卸・小売業」以外の業種で改善した。「先行」DI値は▲23.5と慎重な見方を示している。

3) 売上(受注高) 《改善傾向が続くも先行きは慎重》

「現在」DI値は14.1を示し、売上が2期連続で増加傾向にあることが分かる。業種別では、ばらつきがあるものの、「サービス業・その他」では29.5ポイントも改善された。「先行」DI値は▲21.5と先行きは慎重と言える。

4) 仕入価格 《仕入価格の高止まりから改善》

「現在」DI値は▲31.1で、前回調査から仕入価格の高止まりが改善された。業種別においても仕入価格の改善があった。今後3ヶ月は現在と同水準で推移すると見込んでいる。

5) 販売価格(単価) 《2期連続の悪化でマイナス圏へ》

「現在」DI値は前回調査から10.9ポイント下落し、販売価格が悪化したことを示している。特に建設業では10.3ポイントの減少が見られた。「先行」DI値においては現状からの悪化が見込まれ、なかでも「卸・小売業」の悪化予想が目立つ。

6) 採算(収支)状況 《売上、仕入価格の改善により採算状況が回復》

「現在」DI値は▲25.3を示し、前回調査から改善した。業種別では、「卸・小売業」を除く全ての業種で採算性が高まったことが伺える。今後3ヶ月は、全ての業種において改善される見込みである。

DI値前回調査との比較

※ - (マイナス) は悪化、+ (プラス) は改善

	業界DI値		自社DI値		売上DI値		仕入DI値		販売DI値		採算DI値	
	現在	先行	現在	先行	現在	先行	現在	先行	現在	先行	現在	先行
全業種	14.2	7.4	11.3	3.7	9.5	8.9	11.6	15.1	-10.9	-10.7	6.4	10.2
製造業	16.9	-1.9	4.7	3.4	-2.2	4.5	22.9	10.9	-5.9	-2.7	5.2	10.0
建設業	11.5	-0.6	19.9	-13.1	24.0	1.2	6.6	11.5	-10.3	-9.1	5.9	1.8
卸・小売業	-5.3	7.7	-8.6	-1.0	-18.8	2.9	6.9	23.3	-22.9	-35.8	-10.1	5.2
サービス業・その他	35.6	26.6	27.2	20.2	29.5	24.8	8.9	9.7	0.0	5.6	26.8	24.3

【業界別動向】

業種		キーワード		業界 (現在)	自社 (現在)	売上動向 (現在)
製造	+	・新商品の販路が拡大した	前回 H27.6			
	—	・受注単価の下落(価格競争の激化) ・夏場の受注が減少した	今回 H27.9	↓ 	↓ 	↓
建設	+	・民間、公共事業が順調 ・受注が好調	前回 H27.6			
	—	・電子入札の為、予定が立てられない。 社員も増やせない ・新築住宅の受注が少ない	今回 H27.9	↓ 	↓ 	↓
卸・小売	+	・なし	前回 H27.6			
	—	・内外需ともに低調で販売不振(卸) ・価格の値下げ販売(卸) ・売上不振(小売)	今回 H27.9	↓ 	↓ 	↓
サービス・その他	+	・北陸新幹線開業による来客の増加 (サービス)	前回 H27.6			
	—	・単価が安い(サービス)	今回 H27.9	↓ 	↓ 	↓

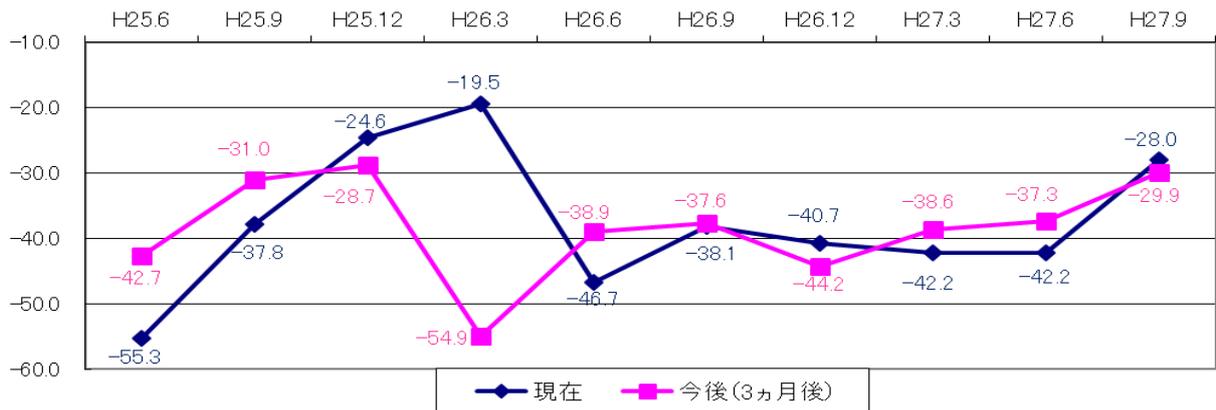
DI 値	天気	DI 値	天気	DI 値	天気
20.1 以上		5.0~▲5.0		▲20.1~▲40.0	
5.1~20.0		▲5.1~▲20.0		▲40.1 以下	

【業界の景況】

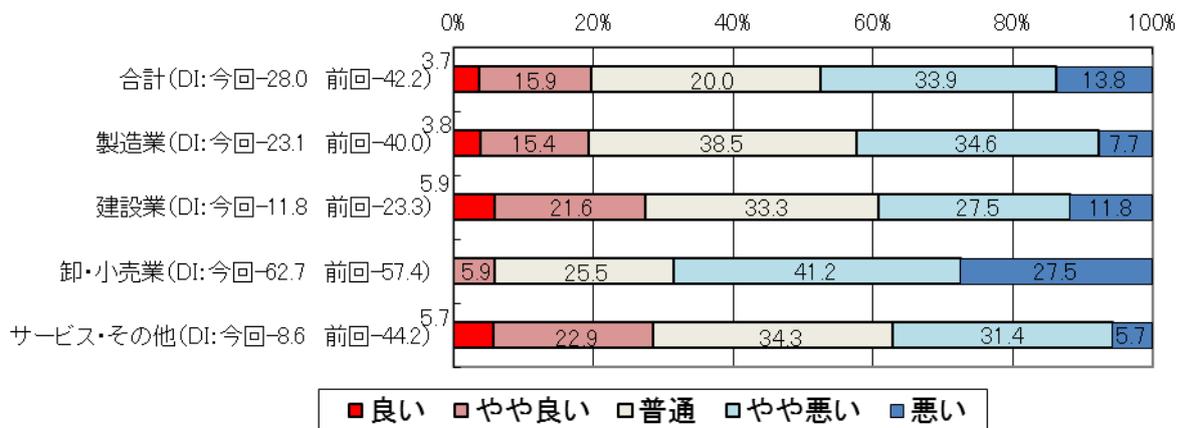
停滞期から脱し、持ち直しの動き

業界の景況は「現在」DI値▲28.0と、前回調査(H27年6月)よりも14.2ポイントの改善となった。ここ一年間は低水準での足踏みが続いていたが、H26年9月期以来の回復である。業種別では、「卸・小売業」を除いた全ての業種で10ポイント以上回復し、なかでも「サービス業・その他」が顕著で35.6ポイントも改善した。「先行」DI値は▲29.9ポイントを示し、「現在」DI値とほぼ同水準で推移すると見ている。

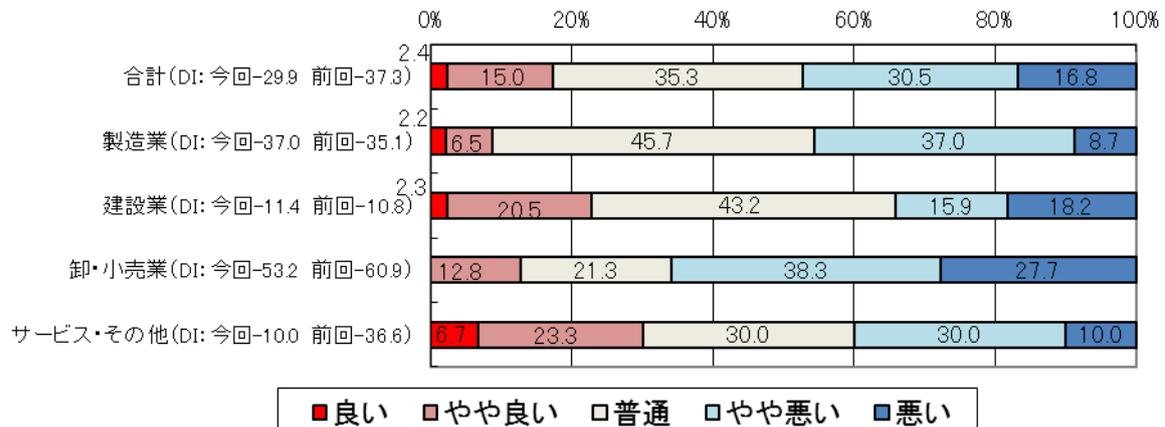
業界景況DI値の推移



現在の業界景況：業種別



3ヵ月後の業界景況：業種別

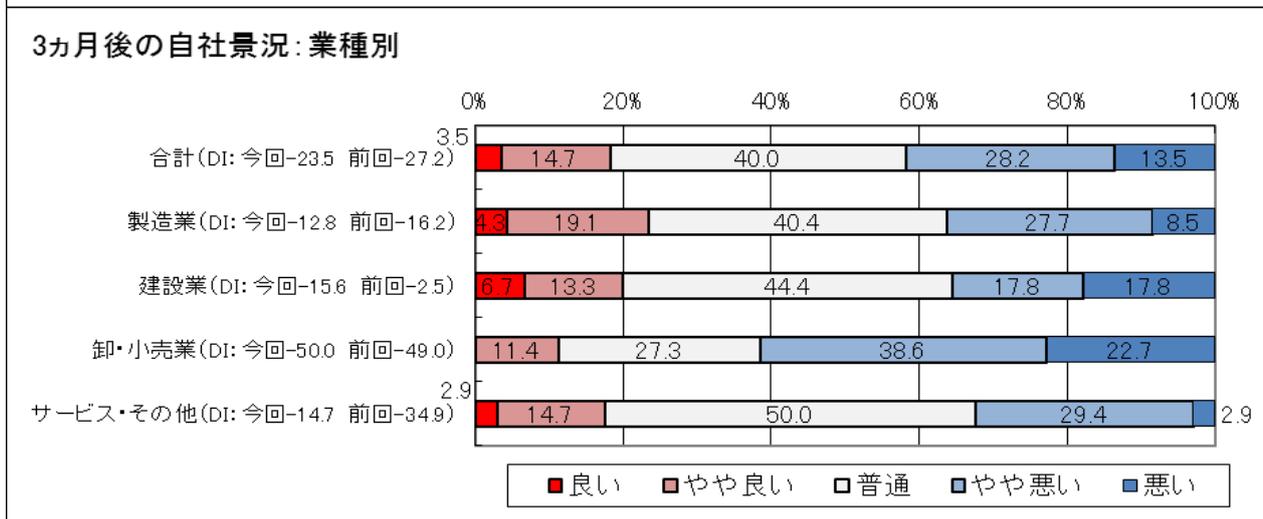
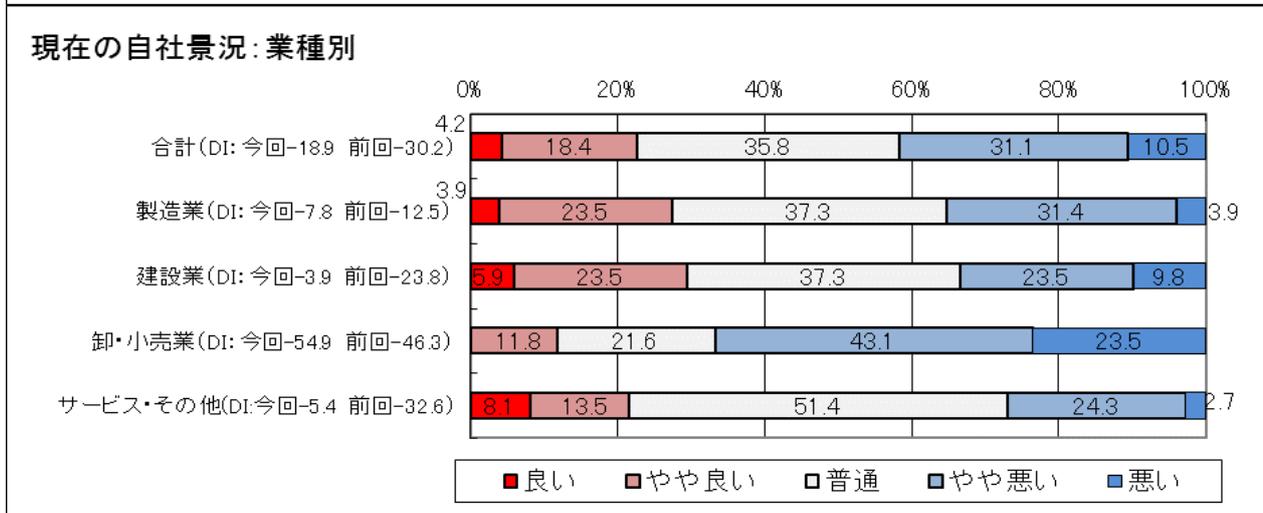
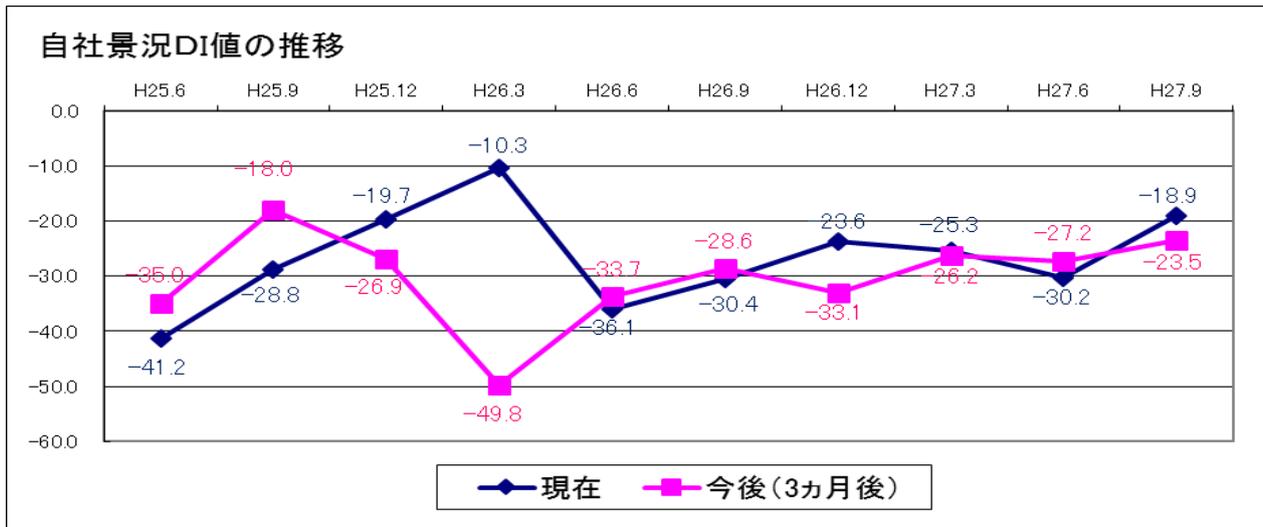


【自社の景況】

大きな改善となるも先行きは慎重

自社の景況は「現在」DI 値▲18.9となり、前回調査と比べ 11.3 ポイント改善された。業種別では、「卸・小売業」のみがマイナスとなり、それ以外の業種では「現在」DI 値が改善した。なかでも、「サービス業・その他」においては前回調査から 27.2 ポイントの回復が見られた。

「先行」DI 値は、▲23.5と「現在」DI 値と比べ 4.6 ポイントの悪化を見込んでおり、今後 3ヶ月の先行は、【業界の景況】より慎重な見方を示している。



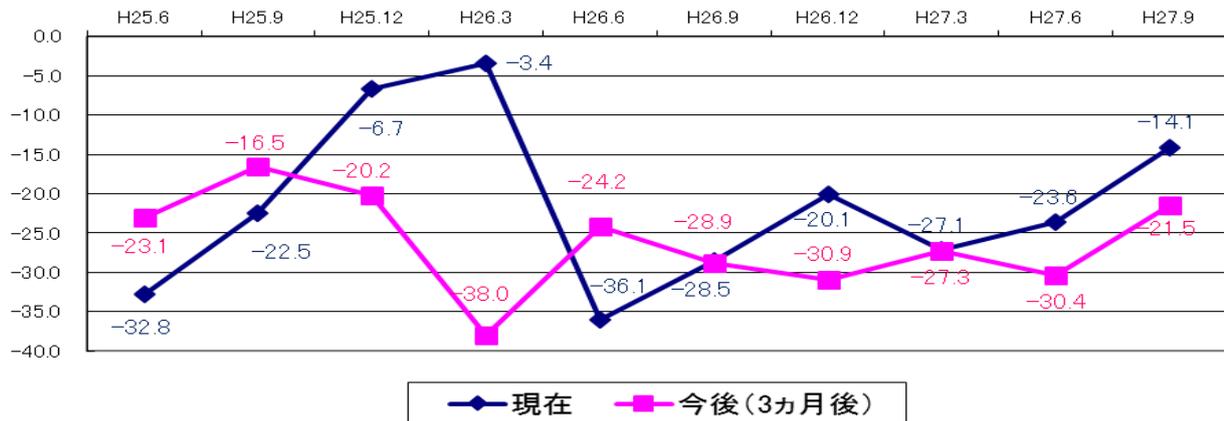
【売上(受注高)】

改善傾向続くも先行きは慎重

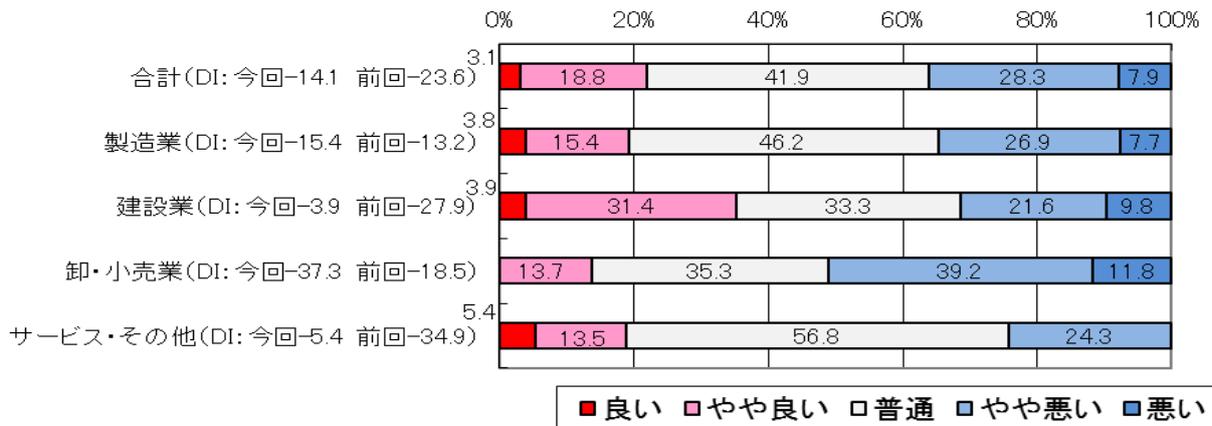
売上(受注高)の「現在」DI値は、▲14.1と前回調査から引き続いて改善し、その改善幅も9.5ポイントと一層大きくなった。業種別では、「サービス業・その他」で29.5ポイント、「建設業」で24.0ポイントの改善となった。一方で、「卸・小売業」では18.8ポイントの悪化が見られた。

「先行」DI値は▲21.5となり、「現在」DI値と比較すれば、今後3ヶ月は慎重な見通しを示している。

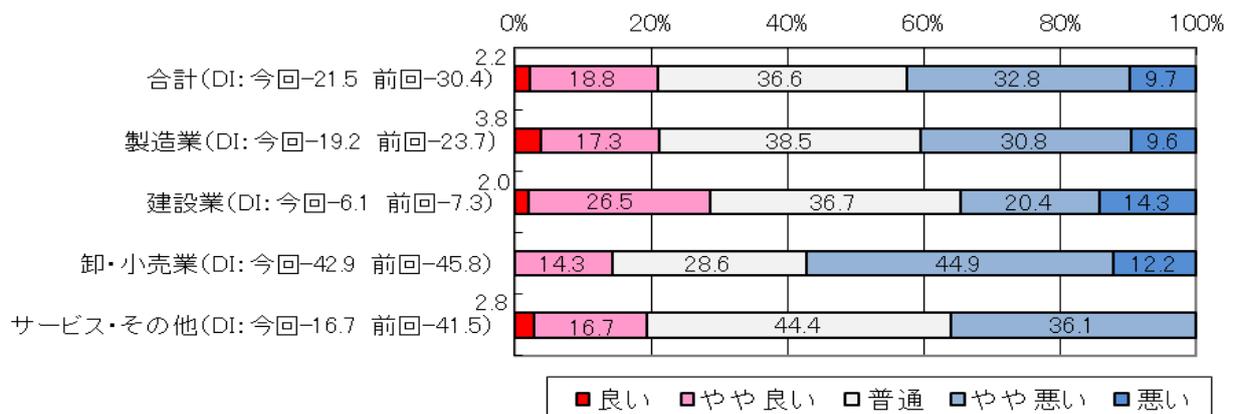
売上状況DI値の推移



業種別：現在の売上状況



業種別：3ヵ月後の売上状況

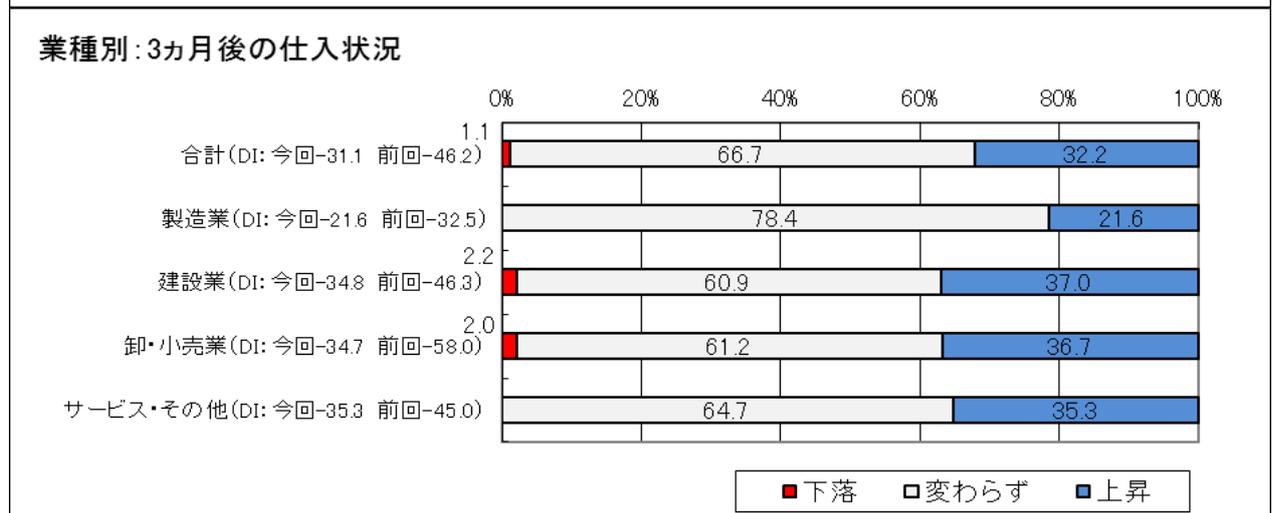
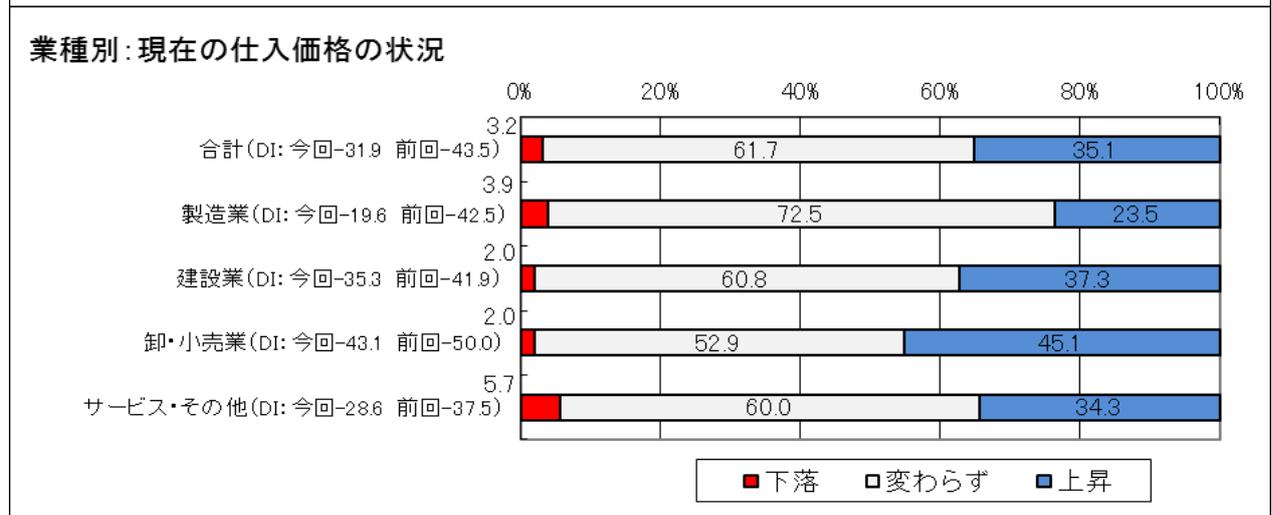
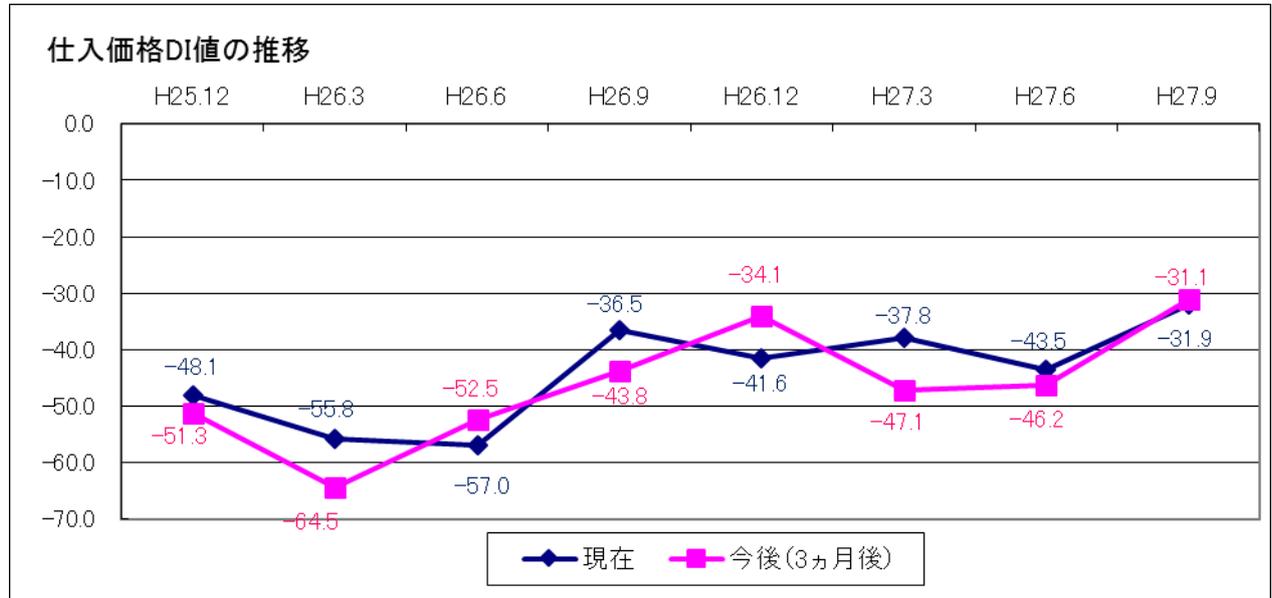


【仕入価格】

仕入価格の高止まりから改善

仕入価格の「現在」DI値は▲31.9となり、前回調査から11.6ポイント改善して、仕入価格の高止まりに歯止めが掛かった。業種別では、全ての業種において改善し、「製造業」では22.9ポイント改善された。

「先行」DI値は、▲31.1と「現在」DI値とほぼ同数値となり、現状を維持すると見込んでいる。

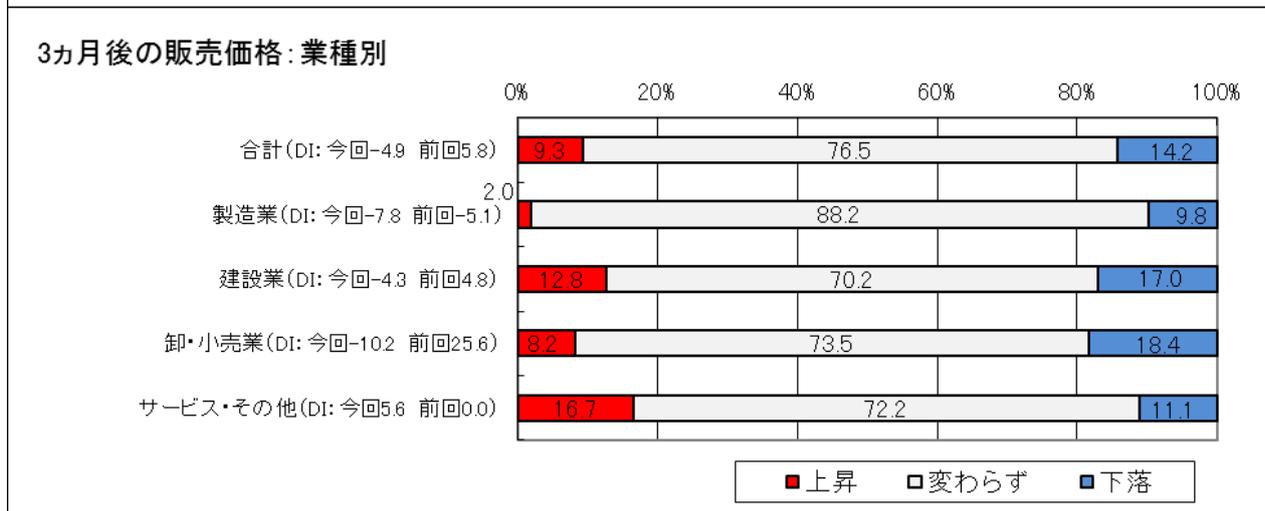
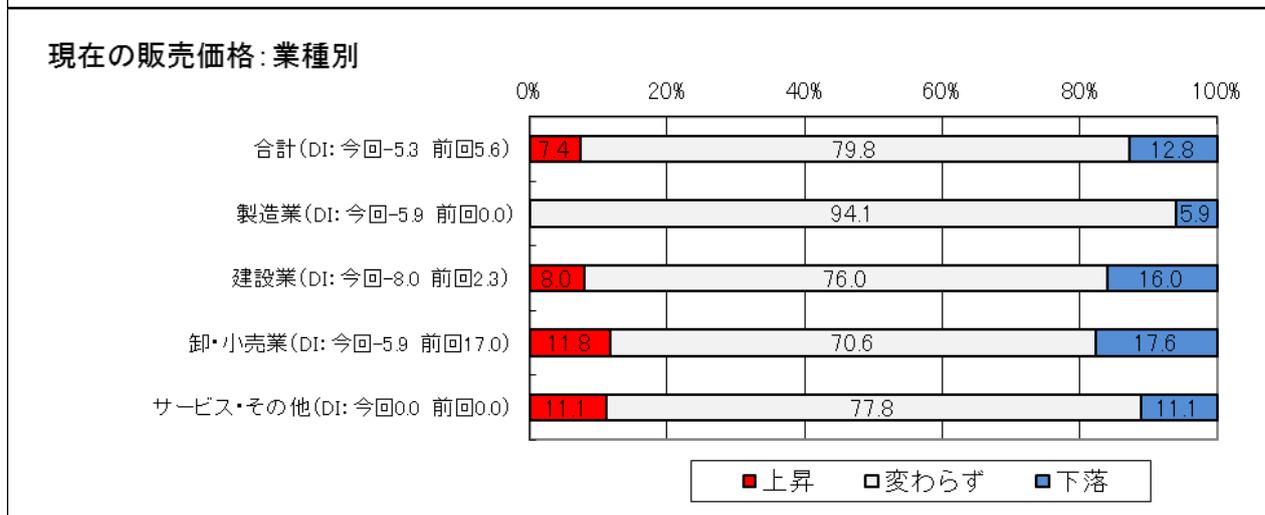
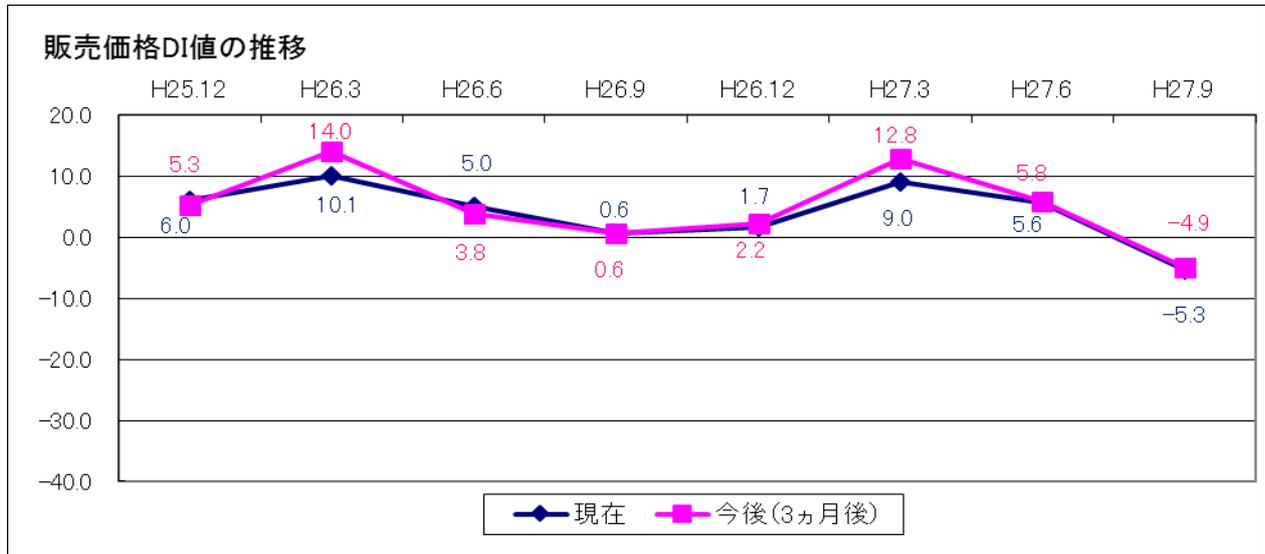


【販売価格(単価)】

2期連続の悪化でマイナス圏へ

販売価格(単価)の「現在」DI値は▲5.3と、前回調査から10.9ポイントの落ち込みで2期連続の悪化となりマイナス圏へ突入した。業種別では、「サービス業・その他」を除く業種で悪化が確認され、なかでも「卸・小売業」の落ち込みは顕著であった。

「先行」DI値は▲4.9を示し、今後3ヶ月も落ち込みが続くと予想している。業種別においては、「製造業」「建設業」「卸・小売業」で悪化が見込まれている。

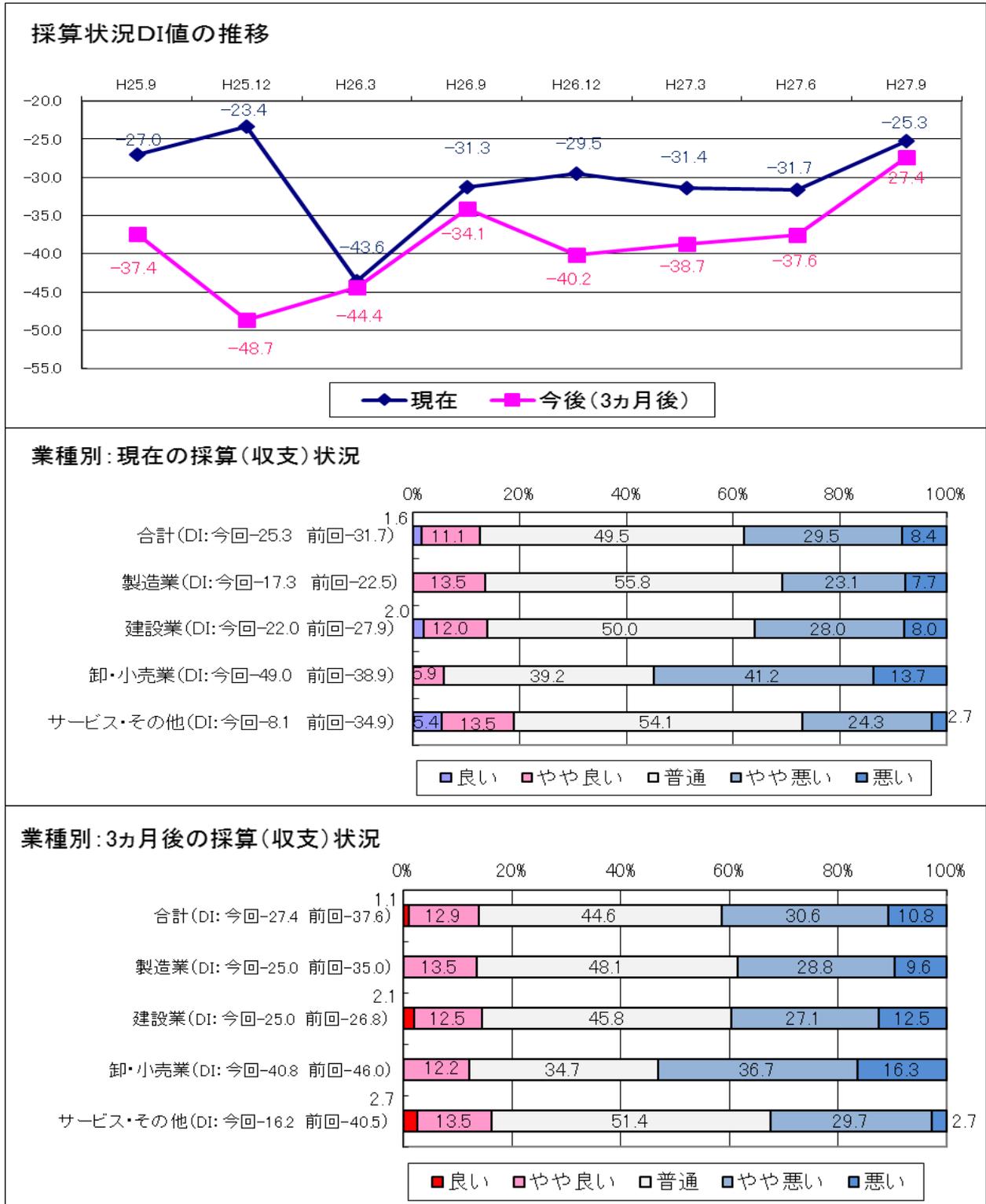


【採算(収支)状況】

売上、仕入価格の改善により採算状況が回復

採算(収支)状況の「現在」DI値は▲25.3と、H26年12月から続いた停滞状況を脱して改善した。【販売価格(単価)】が悪化したものの、【売上(受注高)】、【仕入価格】における改善が寄与し、採算状況の回復に繋がったと考えられる。業種別では、「卸・小売業」を除いた全ての業種が改善し、なかでも「サービス業・その他」では26.8ポイントもの改善が見られた。

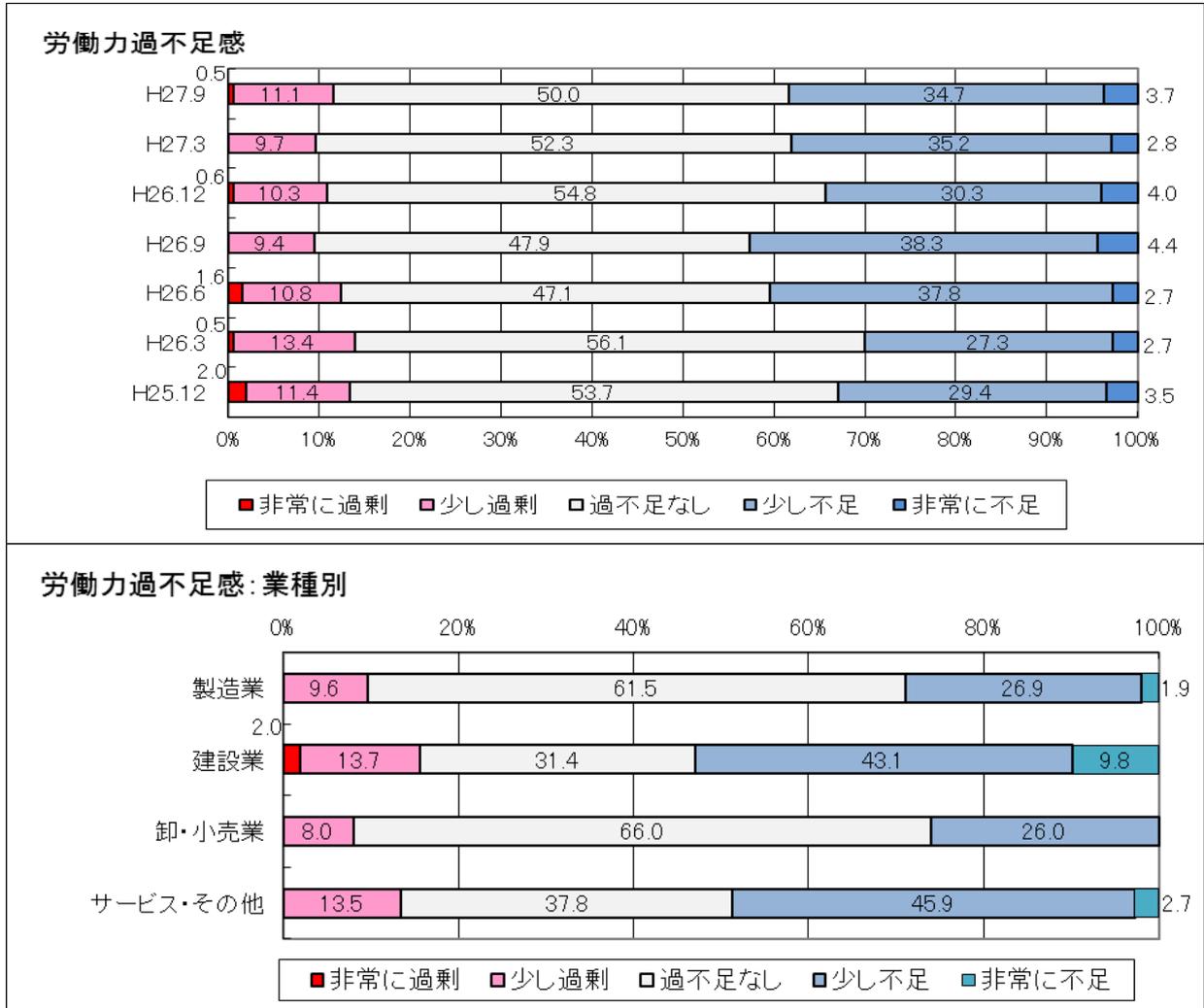
「先行」DI値は▲27.4を示し、「現在」DI値から2.1ポイントの微減で、現状からほぼ横ばいの見通しである。



【労働力の過不足感】

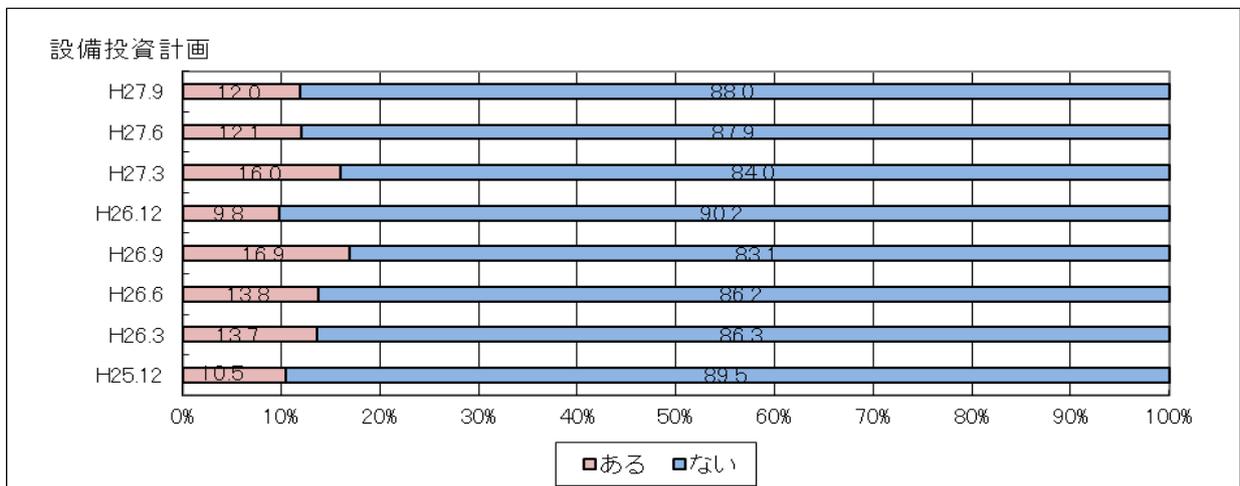
「過剰」（「非常に過剰」＋「少し過剰」）と回答する企業は 11.6%と、前回調査よりも 1.9 ポイント増加した。一方で、「不足」（「少し不足」＋「非常に不足」）と回答した企業は 38.4%と、前回と比較して 0.4 ポイントの増加となった。

業種別では、「建設業」と「サービス業・その他」で不足が目立っている。「製造業」と「卸・小売業」では、「過不足なし」と回答する企業が 60%を超えている。



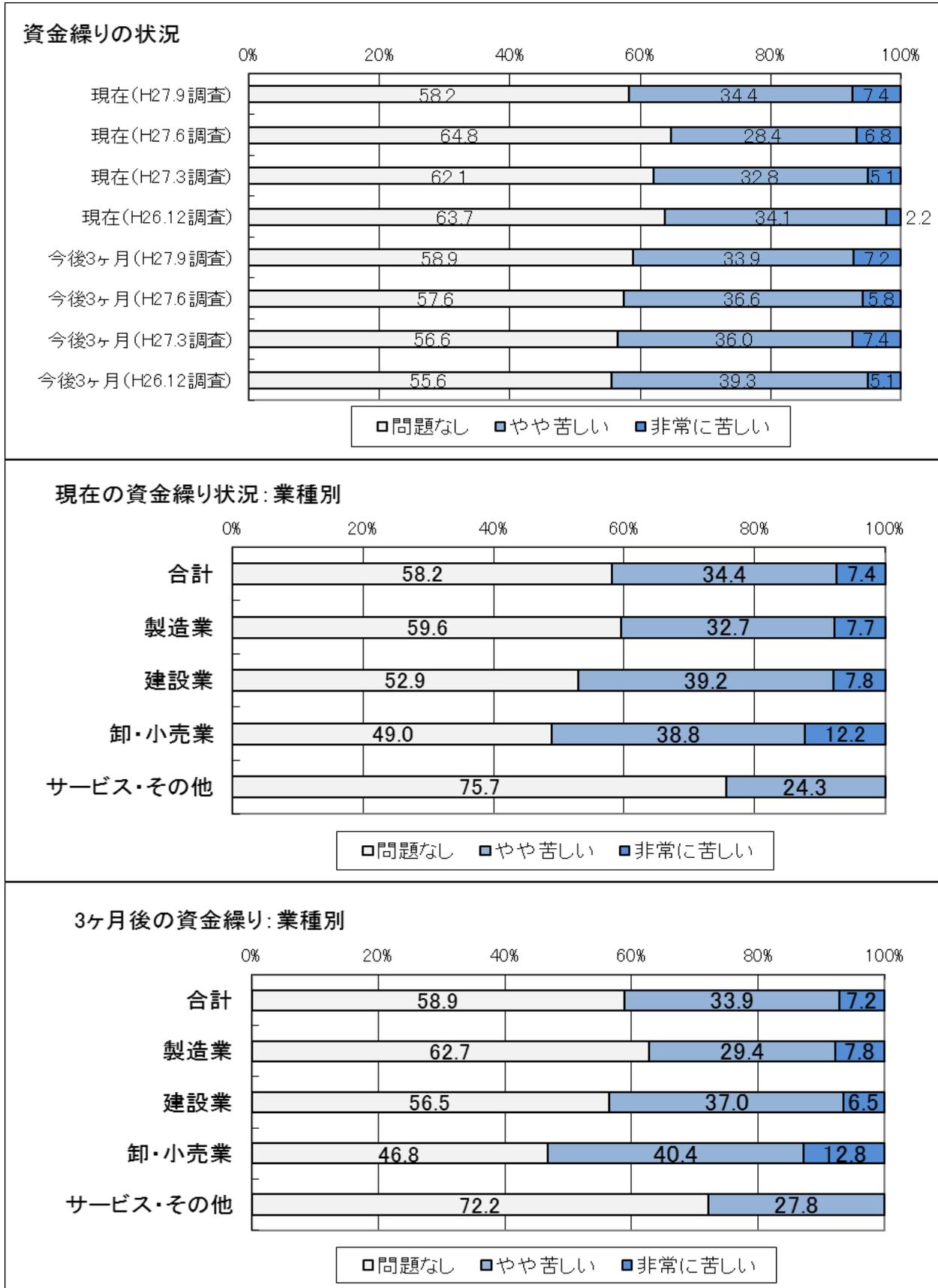
【設備投資計画】

今後 3 ヶ月以内に設備投資計画が「ある」と回答した事業所は 12.0%と、前回調査とほぼ変化のない結果となった。



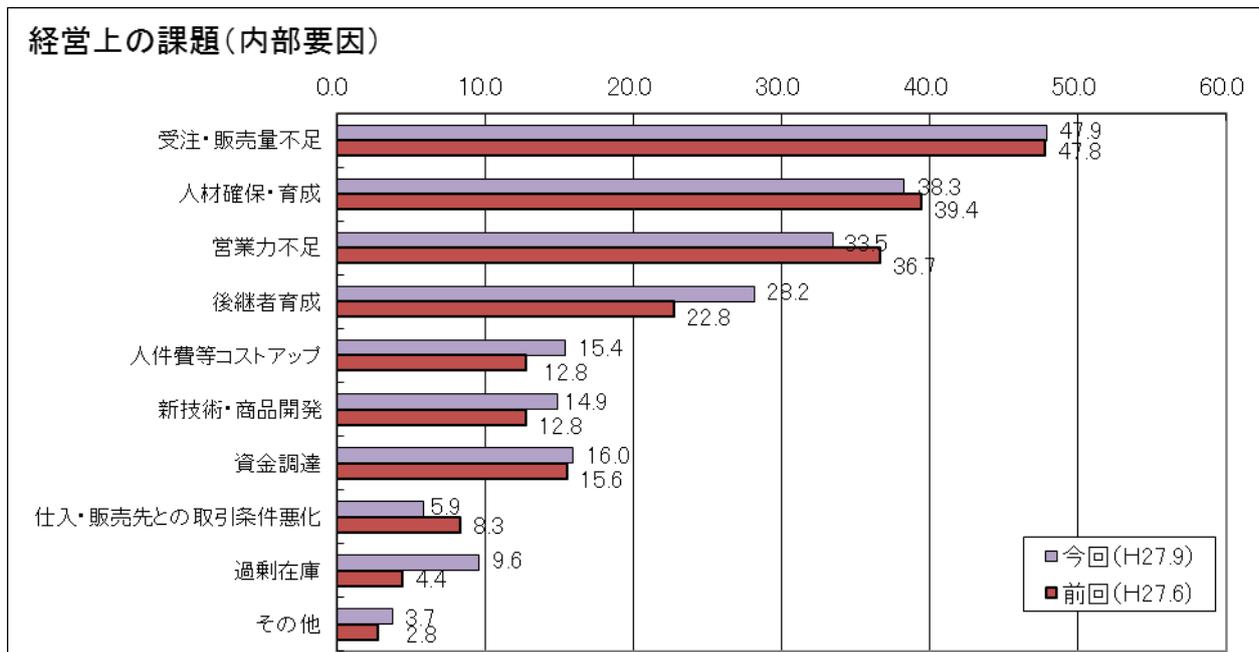
【資金繰り】

現在の資金繰り状況について、「苦しい」（「やや苦しい」＋「非常に苦しい」）と回答した企業が41.8%で、前回調査よりも6.6ポイント悪化している。業種別では、「サービス業・その他」の75.7%が「問題ない」と回答している。一方で、「卸・小売業」では51.0%が「苦しい」（「やや苦しい」＋「非常に苦しい」）と感じている。



【経営上の課題】（複数回答）

内部要因では、「受注・販売量不足」が49.7%と最も多く、前回調査からほとんど変化がない。「後継者育成」と「過剰在庫」の項目で、前回調査と比較して5.0ポイント以上増加していることが注目される。



外部要因では、「同業他社との競合激化」が最も多く56.2%、次に「価格競争激化」44.4%となっている。「価格競争激化」は、前回調査と比較して10.0ポイント以上増加しており、前述の販売価格の悪化が反映されていると考えられる。一方で「原材料高騰」は前回調査より6.5ポイント減少しており、仕入価格の改善が寄与していると考えられる。

